

# 金鷹山

令和5年(2023)9月1日発行

## 通巻第18号

発行所 若宮八幡社社務所  
〒873-0004  
大分県杵築市大字宮司336番地  
発行者 宮司 紀田兼宣  
電話 080(5503)3488

金鷹山 若宮八幡社 [検索](#)

神社公式ホームページ開設しております。御覧ください。  
Instagramはじめました。御覧ください。

祝祭日には国旗を掲揚致しましょう



昨年の若宮楽

## 祭事の 予告

### 九月十日(日) 仲秋祭

親神様であります京都男山に鎮座される石清水八幡宮の例祭(勅祭)を寿ぐと共に、秋の  
稔り多きことと午後からの若宮楽の無事奉納を若宮八幡社の神様にお願ひ申し上げます  
この日のために、北杵築地区と宮司区の子供さん方が一所懸命に練習を行いました  
若宮楽は感染症の対策を講じて行いますので、皆様方のお越しを心よりお待ちしております  
ております(予約不要・無料)

### 午後二時 若宮楽の奉納(大分県無形民俗文化財)

## 大分県無形民俗文化財 御田植祭(早乙女)の奉仕者を募集します

### 記

#### ○募集内容

- 若宮八幡社『御田植祭』早乙女の奉仕者
- ・小学6年生までの女の子
  - ・奉仕日 令和6年4月6日(土)
  - ・杵築地区及び北杵築地区にお住まいになる  
子供さんを原則とします
- ※来年の若宮楽の奉仕者も募集します  
(若宮楽は小学6年生までの男女を募集します)



#### ○問合せ先

金鷹山若宮八幡社  
宮司 紀田兼宣(きだ かねのぶ) 電話 0978(62)3148(若宮八幡社)

### アクセスマップ



# 秋の稔り多きことに感謝申し上げ新嘗祭を齋行 神様に秋の収穫をお供えしませんか？

新嘗祭とは、毎年十一月二十三日の「勤労感謝の日」に全国の神社で行われる秋の収穫をお祝いするお祭りです。

現在では「勤労感謝の日」と呼ばれ、農作を含む全ての仕事に感謝を捧げる日でもあります。

新嘗祭の読み方は「いなめさい」で、「いなめのまつり」「しんじょうさい」と読むこともあります。その漢字の意味は、その年に収穫された新しい穀物を表す「新」を味わうことを意味する「嘗」です。

新嘗祭の始まりは定かではありませんが、秋に稲などの収穫に感謝する営みは二千年以上前からあったとされています。古事記や日本書紀にも新嘗祭と思わしき内容が記されています。

新嘗祭が十一月二十三日になったのは、太陽暦(新暦)を採用した明治六年(1873年)のことと言われています。それ以前は太陰暦で「縁起が良い日」とされてきた十一月の「二番目の卯の日」と定められていました。



ご神前に奉献された稲穂



税金の語源でもある懸税

毎年新嘗祭の日までは、その年の新米を食べてはいけないと言われることがあります。昔は九月頃から収穫を始めても米粒を米俵に入れるまでには二ヶ月を要し、全てが完了するのが新嘗祭のある十一月頃であると共に、加えて神様や天皇陛下より先に新米を食べるのは畏れ多いという考えに基づきます。

御代替りの後、最初の新嘗祭を特別に「大嘗祭」と呼びます。大嘗祭は天武天皇の時代から続く伝統神事で、皇位継承に伴う一世一代の重要な儀式とも言われ、令和の御代替りにも行われました。

秋の収穫に感謝する新嘗祭は、普段何気なく食べていたご飯などの食材のありがたみを思い出すのによい機会です。家でゆっくり食事を戴いたり、これを機会に近所のお祭りや地元行政区などの催しごとに参加されるのも良いことなのかも知れませんね。コロナ禍を経験した我々は、今ある生活の「当たり前」に感謝しながら毎日を送ることが必要なのでしょうか。

## 日本の未来の宝

# 七五三詣の祈願祭を年内承ります

市街地の大きな神社、また参拝祈願者の多い神社では、ほかのご家族と一緒に祈願することとなりますが、当社で祈願される場合は、ご家族のみで心穏やかに参り戴けます。

また七五三詣に併せて、車の交通安全・無病息災・悪疫退散・開運招福・心願成就などの諸祈願も承ります。

(電話0978-623148)

○承り期間 十月上旬から十二月下旬まで  
但し、十一月二十三日(木・勤労感謝の日)は新嘗祭のため午後からの承りとなります。

○祈願料 五,〇〇〇円也

・お子様お二人 八,〇〇〇円也

・お子様お三人 一万円也

○時間帯

〈毎日午前九時から午後五時〉

三〇分ごとに貴家のみにて祈願を厳修致しますので、予約をお願い致します。

○お下がり

・七五三の神札(名前を揮毫します)

・七五三お守り ・神箸

・撤下米(神さまからのお米)

・千歳飴(紅白セット)

・オリジナルの神社トランプ

ほかに  
※お子様にはご兄弟を含めて「紫襟掛け」を身に付けてご祈願戴きます。



オリジナル神社トランプ





金鷹山若宮八幡社



金鷹山若宮八幡社

子供さんがお召しになる襟掛け



昨年奉獻された新米

新嘗祭(十一月二十三日・勤労感謝の日)に秋の実りをお供えしませんか。当社では、四月六日(木)に祈年祭を斎行し、秋の稔り多きことを神様にお願ひしてから、各地区では根付籠祭や御願成就などを経て、秋を迎えるこの時期になってきました。毎年、十月頃から篤志の方々から秋の実りが神様に奉獻されております。日頃、若宮八幡社をご崇敬に與ります氏子崇敬者各位に、ご奉獻を勧奨致します。奉獻者各位には、来たる令和六年四月一日発行の社報「金鷹山」第二十号で芳名を紹介させていただきます(匿名も承ります)

《秋の収穫承りについて》  
—奉獻品の例—

- ①新米(分量の定めはありません)  
お米の袋に詰めて奉獻下さい
- ②懸税(かけちから)  
税金の語源でもある懸税(稻穂)を刈り取った状態で奉獻下さい
- ③野菜・果物  
野菜や果物は恐縮ながら神事前日か当日に持参して奉獻下さい
- ④その他  
氏子崇敬者の各位からの奉獻を心よりお待ちしております

今秋の神事予告  
満月の夜に観月祭

満月の夕刻に若宮八幡社の神様に「雅楽」を奉納する神事「観月祭」を行いますので、ご近所お誘いあわせの上お越し下さりますようお願い申し上げます。

……令和五年度 観月祭……  
日時 九月二十九日(金)午後五時  
場所 若宮八幡社の本殿に於いて  
曲目 平調(ひょうじょう)

- ①鶏徳(けいとく)
- ②越殿楽残楽(えてんらく)
- ③賀殿急(かでのきゅう)

鑑賞 予約等不要です(無料です)  
※隔週の土曜日に龍笛のお稽古を行っておりますのでご覧下さい(無料です)

宮司 大分県内外に  
出向記録  
雅楽・浦安の舞講習会と主基地方風俗舞の奉仕

《第七回 九州雅楽研修会》

日程 五月二十二日(月)～二十三日(火)  
会場 福岡県福岡市東区 香椎宮にて  
主催 福岡県神社庁研修所  
主監 福岡県神社庁雅楽部会  
元宮内庁式部職業部首席楽長  
豊 英秋先生(鳳笙)  
大窪 永夫先生(箏篋)  
安齋 省吾先生(龍笛)の

ご指導を賜りながら、平調(ひょうじょう)五曲を基本に、神葬祭(神式のお葬式)での雅楽奏楽を想定して盤渉調(ばんしきちょう)も研鑽させて戴きました。宮司は今回受講の意義を糧として、観月祭を始め雅楽の涵養に務めて参ります。

《第十九回 大分県神社庁雅楽研修会》

日程 五月二十六日(金)  
会場 白杵市 白杵護国神社  
主催 大分県神社庁研修所  
神社本庁制定祭祀舞(豊栄の舞・大和舞)を中心に、誄歌・追慕歌並びに平成大嘗祭風俗舞の歌などを大分県内神職対象に大分県神社庁雅楽講師として指導する。

《平成大嘗祭主基地方風俗舞奉仕》

日程 六月十四日(水)  
場所 玖珠町大字山浦 瀧神社  
平成度大嘗祭の御神饌米には大分県が主基国に卜定され、大分県玖珠町の田圃が斎田となりました。大嘗宮「主基田供饌の儀」に主基田米と大分県に因む風俗歌が供進されましたことを誉れとして、宮内庁の格別の御計らいにより大分県神社庁挙げてこの風俗舞保存に力を注ぎ、毎年六月十四日には豊穰祈願祭を斎行し、主基地方風俗舞が奉納されております。

《浦安の舞講習会》

日程 八月十六日(水)～十八日(金)  
会場 福岡県神社庁  
主催 福岡県神社庁研修所  
主監 福岡県神社庁雅楽部会  
「浦安の舞」の歌は、昭和天皇の御製を基に作舞されたもので、八百萬の神々の御徳を戴き、世界平和を祈念する舞です。宮司は今後数年間に亘り受講、舞を習得し、氏子の女の子と共に研鑽し、若宮八幡社の神事に於いて奉納戴くよう計画して参ります。



秋の観月祭

# 春から夏にかけての神事のご報告 祈年祭・夏越大祓を厳粛に齋行しました

去る四月六日(木)秋の稔り多きことを神様にお願ひする祈年祭(春季大祭)が、神社総代ほかご来賓の参列のもと厳粛に齋行されました。

祈年祭は、別名『初卯祭』とも称され、昔は四月の初めの卯の日に齋行されていたようですが、現在は四月六日に固定してお祭りが執り行われております。

この祈年祭に対比するお祭りが新嘗祭です。

(新嘗祭の詳細は2頁をご覧ください)  
祈年祭当日は、総代さん

により社殿ほかの装飾が為されました。

篤志者により拝殿の白紋幕が新調され、神様に奉告の後、お披露目も行われました。

また併せて永年に亘り若宮八幡社の総代を奉仕された2名の方の退任と、新たに就任された総代の奉告祭も行いました。総代さんの奥様も賄いほかにご奉仕を戴きましたので一緒に参列を戴きました。

若宮八幡社は年間の神事や諸行事が多く、総代さんには神社にお越し戴くこと



祈年祭



奉納された拝殿の白紋幕

が沢山あり、宮司としましては只々感謝を申し上げることしか出来ません。

これからも元総代として氏子さんと神様の間を取り持つ『中取り持ち』として日々の生活をお過ごし下さりますよう祈念申し上げます。紙面をもちまして多年のご奉仕に厚く感謝申し上げます。次第にございます。

本来ならば当日の午後、御田植祭が行われるところではあります。北杵築地区で早乙女さんを奉仕できる子供さんが集まらないとの理由で残念乍ら本年も中止となってしまいました。

1頁にもありますように、来年の御田植祭の早乙女を奉仕できる子供さんを募集致しておりますので、若宮八幡社か御田植保存会までご連絡をお待ち申し上げます。

去る六月三十日(金)に、令和五年上半期の半年間に、知らない間に積み重なった罪や穢れを、紙で作った「人形・ひとがた」に託し、元宮である西下司浜田社の近く八坂川に自生する「茅」で作った茅の輪を三度くぐり、清々しく残りの半年間を過ごそうと生憎の雨天の中ではありましたが、大勢の参詣者が参列になりました。

併せて飾らなくなった人形や、鯉のぼりなども御霊抜きを奉仕の上お焚き上げを行う「人形昇神祭」も齋行されました。

次回、年越大祓は大晦日に行います。

(尚、年越大祓は茅の輪くぐりはありませんのでご了承下さい)



退任総代に記念品贈呈



雨の中での茅の輪くぐり

## 【編集後記】

▲第十八号は、秋の稔り多きことに感謝する「新嘗祭」のことも記事にしました。▲新嘗祭が齋行される十一月二十三日は「勤労感謝の日」です。この祝日の趣旨は、「勤労をたつとび、生産を祝い、国民が互いに感謝し合う」として制定されました。▲最近テレビで気になるのが、出演者が食事を戴くことを『喰う』と発言することです。画面にはご丁寧な『喰う』の文字がテロップに出て、制作側も違和感なく作っていることにビックリすることがあります。▲いつまでも食事は、命を『戴きます』という感謝の気持ちで以て摂りたいものです。(宮司謹記)